

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型・プロスペール			
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～	2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	100%	(回答者数)	100%
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～	2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	100%	(回答者数)	100%
○事業者向け自己評価表作成日	100%	(回答者数)	100%	

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の融合: モンテッソーリ教育とABA(応用行動分析)を組み合わせた個別最適化支援。	氷山モデルの活用: 表面的な気持ちの表れ等に対し、背景にある感覚特性や欲求を分析する姿勢。	療育の可視化: 専門用語を噛み砕いた「成長のあゆみ」等をSNSで共有し、家庭での療育力を高める。
2	高密度の家族連携: SNSを活用した即時連絡と丁寧な面談による、保護者との高い信頼関係。	自己決定の芽生え: 提示された活動の中から「自分で選ぶ」環境を整え、意欲を尊重する関わり。	就学移行支援の強化: 小学校入学を見据え、集団生活に向けた段階的プログラムの拡充。
3	遊びの中にルール: 遊びの中に、「整理、整頓」を基本に、微細運動や認知機能の向上を楽しく図る選択できる環境。	スタッフの余白確保: 残業ゼロを徹底し、スタッフが笑顔で子どもと向き合える精神的余裕の維持。	感覚統合アプローチの深化: 専門遊具や活動を通じ、IT学習の基盤となる身体感覚の育成を強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	選択肢が多すぎることや、自由な環境設定がかえって刺激過多になり、集中を乱してしまう子が一部存在する可能性。	アセスメントの言語化不足: 経験則による高い支援を、マニュアルや共通指標に落とし込めていない。	支援の標準化: 氷山モデルを用いた「ケース検討会」を定例化し、全スタッフの分析力を底上げする。
2	家庭内再現性の難しさ: 事業所での専門的な関わりが、家庭での対応と解離してしまうリスク。	環境設定の画一化: 個々の特性に合わせた「視覚的な手がかり(絵カード等)」の活用がまだ限定的。	環境の構造化: 物理的レイアウト(パーティション等)を工夫し、集中と緩和のメリハリを明確にする。
3	専門性の属人化: 特定のベテラン職員の観察眼に頼り、新人が同様のアセスメントを行うのに時間がかかる。	多忙な保護者への配慮: SNS連携は密だが、保護者が「専門知識」を学ぶ余裕を十分に提供できていない。	ペアレント・トレーニング: SNSを通じたミニコラム配信など、保護者の「気づき」を促す仕組みの導入。